新調査「隠された産地」：農業大手ファースト・リソーシズ、「森林破壊パーム油」をロンダリング

～“持続可能な”グローバル市場に流通させた疑いが明らかに～

新たな証拠、ファースト・リソーシズ社が森林破壊を行なう
「シャドーカンパニー」からの調達について、市場と株主を誤導していたことを示唆

目次

はじめに：誤解を招く否定 05

森林破壊パーム油：ファースト・リソーシズ施設と桟橋までの流れ 07

ファースト・リソーシズ、開示情報のない原料からパーム核油を生産 10

ファースト・リソーシズ、シャドーカンパニーと会計システムを共有 11

ファンギオノ・グループの影の製油所、森林破壊パーム油をグローバルマーケットへ輸出 12

ファンギオノ・グループの事業管理地に広がる森林破壊 13

結論：ファンギオノ・グループを支える銀行、製油企業・商社、買い手 15

発行日：2026年10月
レインフォレスト・アクション・ネットワーク（RAN）

RAINFOREST ACTION NETWORK
レインフォレスト・アクション・ネットワーク

主な調査結果

インドネシア最大級のパーム油生産・取引企業の一つで、ファンギオノ一族が支配するファースト・リソーシズ（SGX:EB5）は、シャドーカンパニー（影の企業）によって生産された森林破壊とつながりのあるパーム油を自社のサプライチェーンで浄化し、「森林破壊禁止、泥炭地開発禁止、搾取禁止(NDPE)」基準に準拠したパーム油として市場で販売している疑いがある。

インドネシアの「マハカム・ランドスケープ（景観）」は、ボルネオ島に残る手つかずの熱帯林の重要な一部である。RANの調査によると、このランドスケープにおけるアブラヤシ産業は、ファンギオノ・グループがコントロールする企業によって占められ、同グループの事業管理地（コンセッション）はこの地域だけで217,000ヘクタール以上の事業管理地を保有している。これはニューヨーク市の面積の約3倍に相当する。

ファースト・リソーシズは、東カリマンタン州において、同じくファンギオノ・グループがコントロールするFAP アグリ TbkおよびKAS グループと共同で、一体化したパーム油のサプライチェーンを運営している。これら3つのファンギオノ・グループ支配下にある企業によって生産されたパーム油は、同一の貯蔵施設で混合され、ファンギオノ・グループがコントロールする共通のパーム油輸送船隊によって、沿岸の製油所や市場へと輸送されていると見える。これらの企業は、単一の経済主体、すなわち「企業グループ」として事業を行なっているように見受けられる。

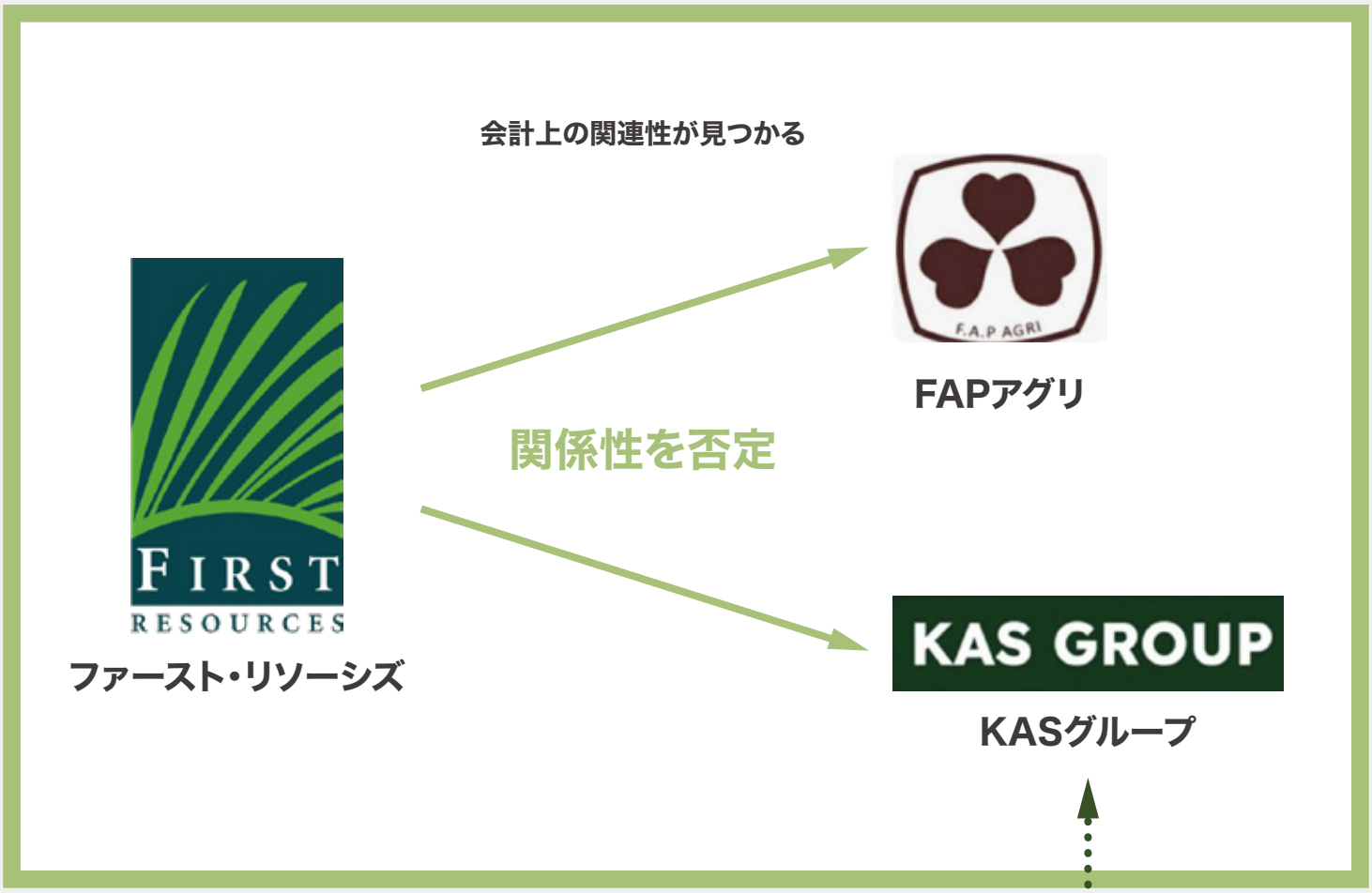
これらの調査結果は、ファースト・リソーシズの取締役会がKAS グループ（旧称スライディ・グループ／ニュー・ボルネオ・アグリ）傘下のシャドーカンパニーとの関係を2024年に否定し、株主およびシンガポール証券取引所に著しく誤解を招く説明を行なっていたことを示唆している。

ファースト・リソーシズとつながりのあるグループ、特にKAS グループは、インドネシア領ボルネオ島の東カリマンタン州における大規模な産業による森林破壊の原因となっている。衛星データ解析によると、FAP アグリおよびKAS グループ傘下の7社が、2021年1月から2026年5月にかけて9,300ヘクタール以上を皆伐したと明らかになった。RANは2026年8月、新たに皆伐された地域で、国際自然保護連合（IUCN）の「レッドリスト」で絶滅危惧種と指定されているイースタン・グレイ・ギボン（ハイイロテナガザルの一種）が確認されたと記録した。つまり、この地域には「保護価値の高い森林（HCVF）」が含まれていたことを示している。RANの分析は、ファースト・リソーシズもまた、自社の事業管理地の一つで500ヘクタール以上の森林を皆伐し（2021年1月から2026年5月）自ら掲げるNDPEコミットメントに直接違反したことを示している。

ファースト・リソーシズとFAP アグリは、当団体の主張を否定した。KAS グループおよびPT Wakana Prima Sejati 社からは回答がなかった。各社の回答は以下に反映され、回答全文はこちら(ファースト・リソーシズ、FAP アグリ)で閲覧可能である。

ファンギオノ・グループ相関図

・・・・・・・・・：シャドーカンパニー



ファンギオノ・グループ ・・・・・・・・・・・・► **スライディ**（グループ創業者の長年のビジネスパートナー）

CPO（パーム原油）とPKO（パーム核油）の輸送経路

KASグループ、FAP アグリ、ファースト・リソーシズの農園と搾油工場

マハカム川上流から運ばれたCPO、バージ船で PT CAKの桟橋に到着

パーム原油（CPO）経路
川の中流で回収されたCPOがトラックでPK CAKに到着

パーム核油（PKO）経路
パーム核、バージ船やトラックでPT CAKに輸送

混合リスク① 共同貯蔵
複数の供給元からのCPOがPT CAKの貯蔵タンク内で混入している可能性がある

混合リスク③ 共同粉砕
複数の供給元からのパーム核、PT CAKの粉砕施設に輸送。ここで混合の可能性

混合リスク③ 共用船での混載
上流から運ばれたCPOとタンク貯蔵されたCPOが、同じ外洋航行用バージ船に積み込まれる

PKO、下流の工程における共同保管・取り扱いルートに運ばれる

2つのCPO輸送経路が、PT CAKの流通経路で合流する

FPS／BMSの外洋航行用バージ船によるCPOの輸送

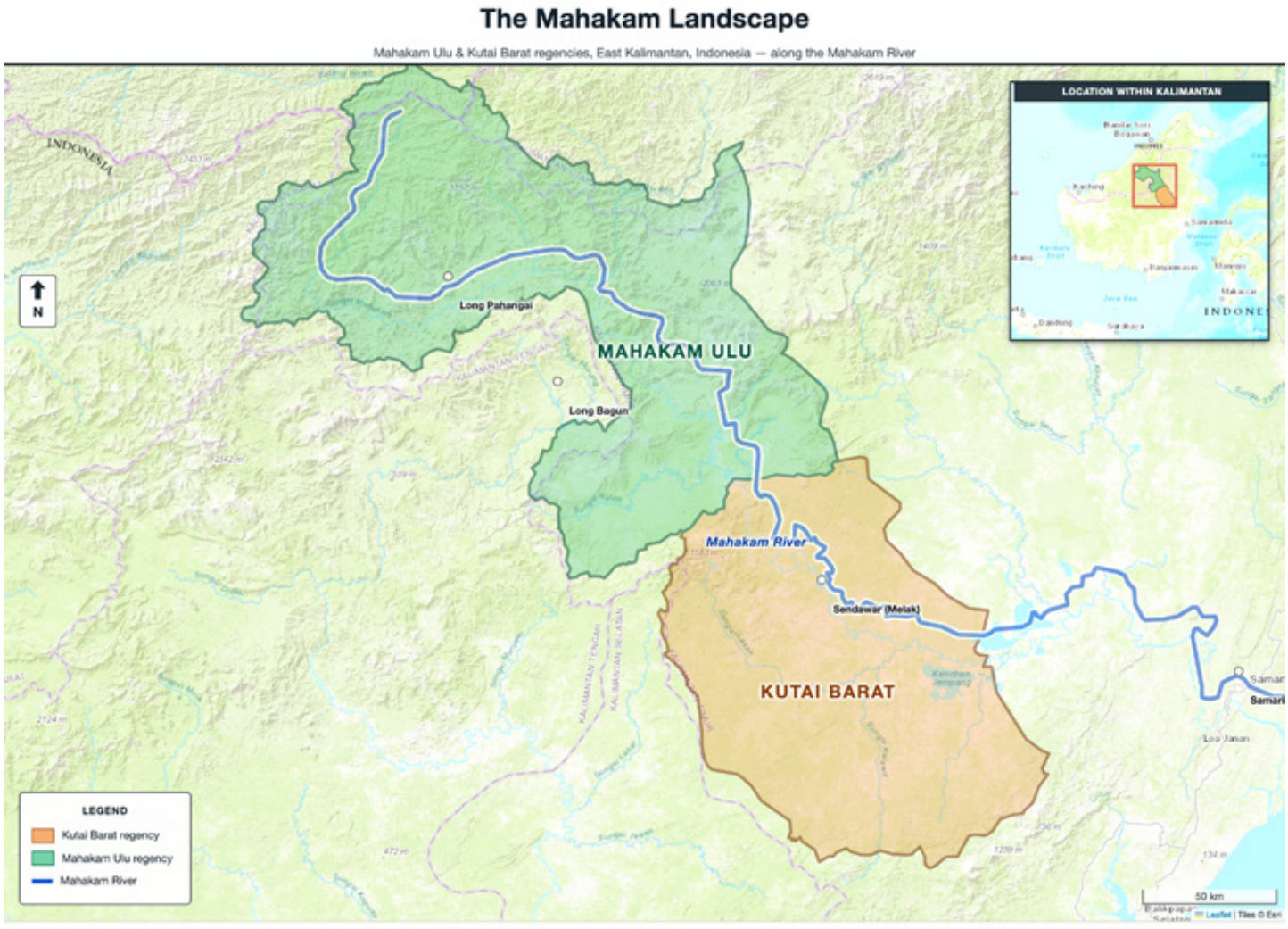
PKO、FPS／BMSの外洋航行用バージ船によって輸送

PT Wahana Prima Sejati（PT WPS）および第三者の製油所

パーム油企業・商社、消費財企業、油脂化学製品および派生製品サプライチェーン。国際市場へ

はじめに：誤解を招く否定

ボルネオ島を流れる大河、マハカム川は、島の中部に連なる山岳地帯から州都サマリンダの海岸まで980kmにわたり流れ、ボルネオ島に残る、生物多様性に富んだ手つかずの熱帯林の重要な一部を形成している。この地域は驚くべき生物多様性を誇り、イラワジイルカ（現地では「ペスット」や「マハカム川イルカ」として知られる）、ボルネオ・オランウータン、イースタン・グレイ・ギボン（ハイイロテナガザルの一種）、マレーグマ、オナガサイチョウ、など数千種の野生動物が生息している。一方、この流域はインドネシア**最大級の**パーム油生産・輸出企業であるファースト・リソーシズ（SGX:EB5）のアブラヤシ生産の中心地域でもある。同社は、インドネシアの大富豪ファンギオノー族が率いるパーム油事業の旗艦企業である。



Locator map — The Mahakam Landscape, East Kalimantan, Indonesia. Base map: Esri World Topographic Map (© Esri, HERE, Garmin, FAO, NOAA, USGS). Regency boundaries: geoBoundaries gbOpen ADM2. Mahakam River centreline: Natural Earth 10m, Web Mercator (EPSG:3857).

ファースト・リソーシズは、2015年末までに自社のサプライチェーンにおける森林破壊をなくすことを約束した。森林破壊を行なわないという一貫した公約により、同社は高付加価値市場へ進出を果たし、シンガポール、日本、マレーシアの銀行から数億ドル規模の融資を確保した。

しかし、ファースト・リソーシズ、とりわけマハカム地域における同社の事業をめぐっては、長年にわたり不可解な点が付きまとってきた。ファースト・リソーシズの操業地の周辺にある複数の事業管理地では、大規模な森林破壊が今なお急速に進んでいる。これらの事業は「KAS グループ」の名のもとで行なわれているが、このグループは（少なくとも書類上は）「スライディ」という人物によってコントロールされている。ファンギオノ一族の家長、マルティアス・ファンギオノ氏の長年のビジネスパートナーだが、その正体は謎に包まれている。

2023年の**調査**では、KAS グループの企業は、マルティアス・ファンギオノ氏の息子たちで、ファースト・リソーシズのCEOと副CEOであるチリアンドラ氏とチク・シギ氏によって実質的にコントロールされていたとの疑惑が指摘された。これを受け、多くのグローバルなパーム油企業・商社や消費財企業がファースト・リソーシズおよびファンギオノ・グループからの調達を停止した。これに対してファースト・リソーシズの取締役会はシンガポール証券取引所に**声明を提出**し、この疑惑を全面的に否定した。声明では、これらのシャドーカンパニーについて、「ファースト・リソーシズの子会社や関連会社、関係当事者、あるいは利害関係社のいずれにも該当しない」と否定し、さらに「NBA ／スライディ・グループ（現在はKAS グループに名称変更）からパーム油製品を購入したことも、取引を行なったこともなく、今後も当社の『持続可能なパーム油に関する方針』を遵守していない企業からは購入しない」と述べた。

この否定に確信が持てなかったことから、RANの調査員たちは現地およびマハカム川沿いでシャドーカンパニーによるパーム油事業と、サプライチェーンの実態の調査・記録に着手した。我々の調査結果は、ファースト・リソーシズが株主およびシンガポール証券取引所に対して行なった否定声明は、著しく誤解を招くものであったことを示唆している。ファースト・リソーシズ、KAS グループ、FAP アグリは、統合されたサプライチェーンを持つ、相互に連携した一つの経済主体として運営されていると見える。それぞれのパーム原油（Crude Palm Oil：CPO）は混合され、ファンギオノ一族のコントロール下にある共通のパーム油輸送バージ船隊によってマハカム川下流へ輸送されている。RANはまた、パーム核油（高付加価値で、アブラヤシ果肉の搾油工程で得られる副産物）についても、ファースト・リソーシズがKAS グループから調達したアブラヤシの核（種子）を用いて生産していることも突き止めた。

ファンギオノ・グループの事業拠点とパーム原油のサプライチェーン地図（東カリマンタン州マハカム川周辺）

一体化した事業運営に関するこうした現地調査結果は、2022年にKAS グループ自身による訴訟でも裏付けられている。この訴訟において、KAS グループの従業員たちは同グループのパーム油がファースト・リソーシズの事業拠点に定期輸送されていたと証言している。また、RANが2024年4月付の内部会計スプレッドシートを調査したところ、ファンギオノ傘下の3つのサブグループ（ファースト・リソーシズ、KAS グループ、FAP アグリ）における複数の事業体が「関連当事者」として特定されていた。「関連当事者」とは会計用語で、所有関係や支配関係、または重要な影響力を有してつながりのある企業を指す。

ここから浮かび上がるのは、ある大富豪の支配下にあるパーム油企業グループが、自社のパーム油の産地や「森林破壊ゼロ」のステータスについて、製油企業・商社やサプライチェーン下流の買い手を欺いてきたように見える構図である。これはまた、投資家やシンガポールの規制当局も、同グループの「帳簿外」事業の規模について同様に欺かれてきた可能性を示唆している。これにより、ファンギオノ一族の上場企業であるファースト・リソーシズ（SGX：EB5）、FAPアグリTbk（IDX：FAPA）、ANJ（IDX：ANJT）の企業統治に関して深刻な懸念が生じている。上記3社の時価総額は、それぞれ61億米ドル、15億米ドル、3億米ドルとなっている。

さらに際立っているのは、マハカム川沿いの土地と森林への経済的支配が、ファンギオノ・グループに異常に集中している点である。同グループは現在、マハカムウル県とクタイバラ県だけで少なくとも217,165ヘクタールの開発用地を保有し、その面積は両県のアブラヤシ事業許可地全体の64%に相当する。また、同グループは、全部で19カ所ある搾油工場のうち10カ所を運営している。

「森林破壊パーム油」：ファースト・リソーシズ施設と桟橋までの流れ

NDPE方針を約束している主要消費財企業やパーム油企業・商社は、ファースト・リソーシズが東カリマンタン州で操業する2つの搾油工場PT Citra Agro Kencana（PT CAK）とPT Ketapang Agro Lestari（PT KAL）をサプライヤーとして挙げている。これにはウィルマー、カーギル、ADM、ブンゲ、バリー・カレボー、オラムといった製油企業・商社が含まれる。そしてファースト・リソーシズの東カリマンタン州にある搾油工場はペプシコやモンデリーズ、ネスレ、ケラノバ、ハーシーといったおなじみの消費財企業のサプライチェーンとつながっている。

しかし、詳しく調査したところ、PT CAKは同地域におけるファースト・リソーシズ最大規模の搾油工場でありながら、マハカム川沿いのRoyoq村付近で積出施設と河港も操業していることが判明した。この施設はパーム原油とパーム核油を貯蔵し、川下の沿岸地域にある製油所や世界市場へと輸送するバージ船に積み込むための中心拠点となっている。

クタイバラ県のファンギオノ搾油工場から運ばれたパーム原油輸送トラック。ファースト・リソーシズの貯蔵タンクへの荷下ろしを待っている、2026年第1四半期

ファースト・リソーシズは新たに2基の貯蔵タンクを建設し、貯蔵能力を拡大した、2026年第2四半期

ファンギオノ傘下2社の、パーム油を載せた外洋航行バージ船（PT Fangiono Perkasa Sejati（以下「FPS船　船」）とPT Bina Maritim Sejati（以　下「BMS船舶」））は、川の上流に向かいPT CAKの桟橋沖に停泊し、陸上の貯蔵タンクからパーム油を積み込んだり、上流から到着する小型バージ船から別の船にパーム油を積み替えたりしていた。

ファンギオノ・グループがコントロールする「FPS船舶」と「BMS船舶」5隻。PT CAKの桟橋で積載を待つ、2026年第1四半期）

PT CAKの桟橋沖に停泊する大型バージ船へ、小型バージ船からパーム油を積み替える乗組員、2026年第2四半期

「FPS船舶」と「BMS船舶」、2026年第2四半期

「FPS 22A」バージ船が、陸上の貯蔵タンクに横付けされた「FPS16A」バージ船の両方につながっている様子を示す航空写真、2026年第2 四半期。オレンジ色の点線は、容器に液体を充填するために使用されたホースのおおよその経路を示している

RANの調査員たちは、PT CAKの施設にトラックや小型バージ船で搬入されるパーム原油が、ファースト・リソーシズの搾油工場からだけでなく、東カリマンタン州にあるKASグループおよびFAPアグリの搾油工場からも供給されていたことを確認した。この事実はKASグループの搾油工場の従業員によって確認され、さらに、KASグループ傘下のPT Agro Mananggul Selaras（PT AMS）が2022年に提起した訴訟によっても裏付けられている。この訴訟では、PT CAK施設でトラックの検査・計量を担当する従業員やPT AMSの内部監査人を含む証人が、両施設間でパーム原油が日常的に供給されていたことを証言している。2022年にはKAS グループとファースト・リソーシズの間で相当規模の取引が行なわれ、今回のRANによる現地調査の証拠から、こうした取引が2026年も継続していることが示された。これは、ファーストリソーシズがKAS グループとのいかなる形の商業的関係も否定した、2024年の株主向け声明と矛盾している。

パーム原油を載せたトラックの経路の例（追跡調査で確認された、PT BCPMからPT CAKの積み出し施設までの2ルート（B9836UF、B9786UFV）、2026年第2四半期

PT BCPM搾油工場を出発した、パーム原油を積んだトラックB9836UF：-0.678163, 115.773599

トランス・カリマンタン高速道路を走行中のパーム原油を積んだトラックB9836UF：-0.673480, 115.770798

PT CAKの施設に近いセンダワール道路上のパーム原油を積んだトラック B9836UF：-0.231070,115.795655

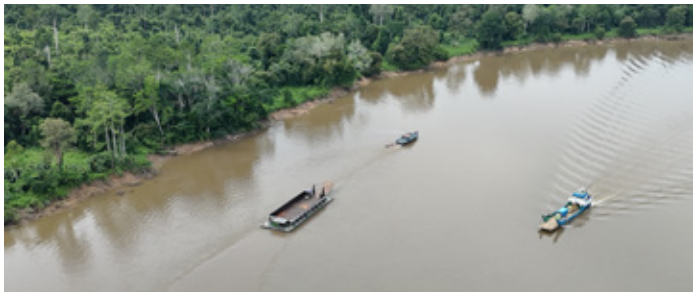
パーム原油を積んだトラックB9836UFが PT CAK施設に入場：-0.214803, 115.785984

2026年の調査において、KASグループの従業員は、同グループの搾油工場（PT Borneo Citra Persada Mandiri（PT BCPM）とPT AMS）を出たパーム原油輸送トラックはPT CAKの積み出し施設へ荷下ろしのために運転されていると証言した。RANは、2026年5月にPT BCPMからPT CAKへ向かうトラックを追跡し、この事実を確認した。この積み出し施設に運び込まれたパーム原油は、共用の貯蔵タンクに荷下ろしされ、ファンギオノ一族の傘下にある複数の供給元からのパーム原油と混合されているとみられる。監視期間中（2026年1月〜 7月）、積み出し施設は貯蔵容量を拡大し、同地域におけるファンギオノ・グループの生産量増加と事業拡大計画を示唆している。

ファンギオノの搾油工場から運ばれるパーム原油の混合は、積み出し施設のタンクだけでなく、マハカム川の下流へパーム原油を輸送する、ファンギオノ一族がコントロールするバージ船隊でも行なわれている。マハカム川上流のマハカムウル県では、ファンギオノ・グループが3つのパーム油搾油工場を操業している。そのうち2つはFAP アグリ Tbkがコントロールするpt Marsam Citra AdiperkasaとPT Borneo Bhakti Sejahteraで、残る1つはKAS グループがコントロールするPT Setia Agro Abadiである。これらの工場はファンギオノの農園で収穫された果実を搾油してパーム原油を生産し、この地域の大規模な森林破壊を引き起こしている。

PT Setia Agro Abadi からPT CAK の施設へ積み替えのために輸送される、森林破壊を伴うパーム油、2026年第2四半期

「FPS16A」バージ船にへパーム原油をポンプ移送するPT SAA搾油工場のトラック



川を下り、ファースト・リソーシズの桟橋および積み出し施設へ向かう「FPS16A」

「FPS22A」へパーム原油をポンプ移送する「FPS16A」

ファースト・リソーシズの桟橋と積み出し施設の陸上貯蔵タンクに係留された「FPS22A」

RANの調査員たちは、2026年第2四半期にこうした輸送の一例を記録した。小型バージ船「FPS16A」（推定積載量500トン）が、PT Setia Agro Abadi（PT SAA）の桟橋で目撃された。PT SAAはマハカムウル県で最も大規模な森林破壊を行なっている企業で、2021年1月から2026年5月の間に3,500ヘクタール以上を皆伐している。PT SAAの搾油工場からパーム原油を輸送するトラックが何台も到着し、FPS16Aの船倉にパーム原油を積み込んだ。（このバージ船はパーム核油の輸送にも使われている）。その後、FPS16Aは川を下ってPT CAKの桟橋まで曳航され、そこでPT SAAのパーム原油は、より大型のファンギオノのバージ船「FPS19A」（推定積載量5,000トン）に積み替えられた。同時に、この船舶には陸上の貯蔵タンクからのパーム原油が積み込まれていた。こうして複数の供給元からのパーム原油を満載したFPS19Aは、さらに下流へ向かい、バリクパパン湾（訳註：東カリマンタン州の大都市）の製油所で荷下ろしを行った。ここからパーム油は、世界のサプライチェーンへ流通していくことになる。

上記で詳述したRANの申し立てに対し、ファースト・リソーシズはPT CAKの積み出し施設おける具体的な操業についてのコメントをしなかったが、第三者との間でパーム原油製品の混合や混載を行ってはいないと否定し、KASグループとの関係も否定した。

ファースト・リソーシズ、開示情報のない原料からパーム核油を生産

ファースト・リソーシズ、FAP アグリ、KAS グループのパーム油サプライチェーンはパーム原油だけでなくパーム核油（Palm Kernel Oil：PKO）生産においても一体化されている。ファースト・リソーシズが操業する２つの搾油工場、PT CAK と PT KAL はパーム核（種子：パーム原油生産過程で得られる副産物）を圧搾してパーム核油を生産している。

KAS グループの従業員は RAN の調査員たちに、クタイバラ県の搾油工場（PT AMS と PT BCPM を含む、訳註：いずれも KAS グループ）から出荷されたパーム核がトラックで PT CAK へ搾油のために運ばれていると証言した。2026 年 7 月、RAN の調査員たちは、PT AMS を出るパーム核輸送トラックを確認・記録した。現地の従業員は、このトラックの行き先が PT CAK のパーム核粉砕施設であることを認めた。

従業員はさらに、上流の搾油工場（KAS グループの PT SAA、FAP アグリの PT Borneo Bhakti Sejahtera と PT Marsam Citra Adiperkasa）から、パーム核がバージ船で PT CAK の桟橋まで輸送され、そこでトラックに積み替えられた後、PT CAK のパーム核粉砕施設へ運ばれていることも認めた。PT CAK は、FAP アグリからのパーム核調達を開示しているが、RAN が特定した KAS グループの搾油工場については調達先として開示していなかった。

ファースト・リソーシズは、自社のパーム核調達に関する具体的な申し立てについてコメントしなかった。

KAS グループを含め、ファンギオノー族の事業からのパーム核は、陸路と河川を経由して、PT CAKのパーム核粉砕施設へと輸送される

マハカムウル県からのパーム核をPT CAK の施設で積み込んだトラック。PT CAKのパーム核粉砕施設へ輸送される。同様のバージ船が、KASグループのPT SAA搾油工場からパーム核を輸送している（2026年第1四半期）

PT AMSの搾油工場からPT CAKの粉砕施設へ輸送されるパーム核（2026年第2四半期）

ファースト・リソーシズ、シャドーカンパニーと会計システムを共有

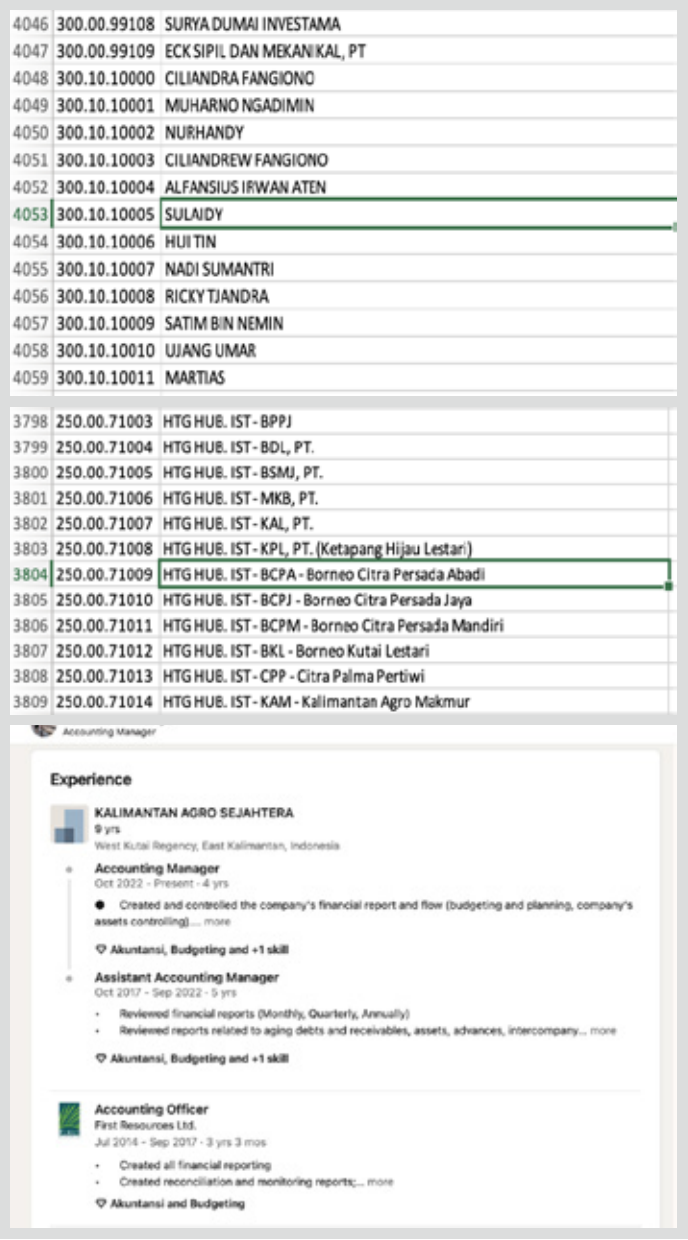
ファースト・リソーシズは2024年4月に発表した株主向け声明で、FAP アグリが同社の関連会社または子会社であることを否定し、同社を「必要に応じて取引を行なう」供給業者であると説明した。また、現在 KAS グループとして事業を行っている企業とのいかなるつながりも全面的に否定した。

RANは、ファースト・リソーシズの社内会計集計表を精査した。日付は2024 年4月30日付で、同社がシンガポール証券取引所に情報開示をした2週間後にあたる。この資料は、ファースト・リソーシズ、FAP アグリ、KAS グループにわたる統合的な財務管理の実態を明らかにしている。この集計表には「勘定科目表」が含まれ、複雑な企業グループ全体の財務状況を把握するための帳簿とている。そこには、ファースト・リソーシズとFAP アグリ、KAS グループにわたる数十社に加え、それぞれの持株会社も網羅され、いずれも「hubungan istimewa」、すなわち「関連当事者」として記載されている。「関連当事者」とは、所有関係、支配関係、または重要な影響力を通じてつながりのある事業体を指す会計用語である。これは、ファースト・リソーシズがKASグループとの関係について株主に説明した内容とは整合性が取れず（それどころか、まさに正反対の内容であり）、説明がつかない。

メタデータ（訳註：データに関する情報）から、これらの会計集計表が、ある会計士によって作成されたことが明らかになった。この人物のLinkedIn プロフィールによると、2014 年からファンギオノ・グループに勤務し、当初はファースト・リソーシズに、2017 年からは KAS グループで勤務し、財務報告、予算管理、会社資産の管理などを担当してきた。問題となっている集計表のファイルは、FAP アグリの企業（PT Setia Agro Utama、PT Borneo Bhakti Sejahtera）に関するもので、最後に保存したユーザーは「FAP Admin」となっていた。このことは、2024 年 4 月時点で FAP アグリがこの会計帳簿システムを使用していたことを示唆する。

FAP アグリ、ファースト・リソーシズ、KAS グループのいずれも、これらの具体的な申し立てには回答しなかった。ファースト・リソーシズは、FAP アグリとは「必要に応じて取引を行なう」関係にあるとする 2024 年の声明を繰り返すにとどまり、KAS グループとはいかなる関係も否定した。一方、FAP アグリはより一般的な形で、財務報告、内部監査、リスク管理、規制遵守の各機能を独立して維持していると述べた。

ファンギオの一族、スライディを含む株主と、ファースト・リソーシズおよびKAS グループ傘下の企業が「hubungan istimewa（関連当事者）」として記載されていることを示す勘定科目表の集計表の例



4046	300.00.99108	SURYA DUMAI INVESTAMA
4047	300.00.99109	ECK SIPIL DAN MEKANIKAL, PT
4048	300.10.10000	CILIANDRA FANGIONO
4049	300.10.10001	MUHARNO NGADIMIN
4050	300.10.10002	NURHANDY
4051	300.10.10003	CILIANDREW FANGIONO
4052	300.10.10004	ALFANSIUS IRWAN ATEN
4053	300.10.10005	SULAIDY
4054	300.10.10006	HUI TIN
4055	300.10.10007	NADI SUMANTRI
4056	300.10.10008	RICKY TJANDRA
4057	300.10.10009	SATIM BIN NEMIN
4058	300.10.10010	UJANG UMAR
4059	300.10.10011	MARTIAS
3798	250.00.71003	HTG HUB. IST - BPPJ
3799	250.00.71004	HTG HUB. IST - BDL, PT.
3800	250.00.71005	HTG HUB. IST - BSMJ, PT.
3801	250.00.71006	HTG HUB. IST - MKB, PT.
3802	250.00.71007	HTG HUB. IST - KAL, PT.
3803	250.00.71008	HTG HUB. IST - KPL, PT. (Ketapang Hijau Lestari)
3804	250.00.71009	HTG HUB. IST - BCPA - Borneo Citra Persada Abadi
3805	250.00.71010	HTG HUB. IST - BCPJ - Borneo Citra Persada Jaya
3806	250.00.71011	HTG HUB. IST - BCPM - Borneo Citra Persada Mandiri
3807	250.00.71012	HTG HUB. IST - BKL - Borneo Kutai Lestari
3808	250.00.71013	HTG HUB. IST - CPP - Citra Palma Pertiwi
3809	250.00.71014	HTG HUB. IST - KAM - Kalimantan Agro Makmur

RANが確認した、勘定科目表の記入者のLinkedInのスクリーンショット

ファンギオノ・グループの影の製油所、森林破壊パーム油をグローバルマーケットへ輸出

PT FPSとPT BMSのバージ船はマハカム川のPT CAKの桟橋でパーム油を積み込み、川を下ってバリクパパン湾へ向かう。その大半がファンギオノ一族の「シャドーカンパニー」の製油所であるPT Wahana Prima Sejati（PT WPS）に到着する。

PT WPSはかつてファースト・リソーシズの子会社で、バリクパパン湾に施設建設予定地を保有していた。ファースト・リソーシズは2020年に土地の開墾に着手したが、RSPOへの苦情申し立てを受け、環境上の理由から工事停止命令が出された。その後、ファースト・リソーシズは2023年にPT WPSの株式を別の企業に売却したが、その企業の所有者はオフショア企業を介し不透明のままである。所有者の変更が報じられた後、整地が再開されて製油所の建設が始まり、同施設は2025年7月に輸出を開始した。

バリクパパン湾で建設中のPT WPS製油所、2025年第3四半期

しかし、PT WPSは事実上、東カリマンタン州のファンギオノ・グループの製油部門として事業継続している。国内の港湾データを分析し、PT FPS/BMS船隊の船舶追跡データと照合したところ、2025年9月から2026年6月の間に、PT WPS製油所の桟橋で荷下ろしされたパーム原油の少なくとも93%が、ファースト・リソーシズとFAP アグリ、KAS グループの供給元からであることが判明した。そのうち約60%はマハカム川沿いのPT CAK積み出し施設から、さらに約33%は北カリマンタン州ヌヌカンにあるFAPアグリの搾油工場から供給されていた。

2025年の製油所操業開始以来、PT WPSへのパーム油供給は、FAP アグリの最新の半期財務報告書（2026年上半期）に反映されている。同報告書によると、PT WPSはFAP アグリの最大の「顧客」へと急浮上し、約1億3,400万米ドルに上る同社の純売上高の55%を占めている。しかし、PT WPSは単なる顧客ではなく、ファンギオノ・グループの一員であるという有力な証拠が存在する。2024年4月、PT WPSはFAPアグリの勘定科目表（前述参照）に「関連当事者」として記載され、近年FAPアグリの最大顧客の一つであるウィルマーも、2025年の開示資料においてPT WPSの親会社を「ファンギオノ・アグロ・プランテーション（Fangiono Agro Plantation）」と記載している。

これらの申し立てに対し、FAPアグリは「PT WPSとの間ではパーム原油売買においてサプライヤーと顧客の関係を維持している」と説明した。そして「事業体間に商取引が存在することは、多額または継続的な場合でも、共通の支配下にあることを裏付ける証拠にはならない」と述べ、「これらの事業体が単一の経済主体を構成していることが立証されるわけではない」との立場を維持した。

FAPアグリは、自社の会計資料でPT WPSが「関連当事者」に分類されていることについてはコメントしなかった。RANはPT WPSに対してもこの申し立てについて見解を求めたが、回答は得られなかった。

ファンギオノ・グループの事業管理地に広がる森林破壊

ファンギオノ・グループ傘下の上場企業2社、ファースト・リソーシズとFAPアグリは「森林破壊禁止、泥炭地開発禁止、搾取禁止(NDPE)」の公約を掲げ、その「基準日」(カットオフ日)はそれぞれ2016年と2019年となっている。一方、「KAS」傘下で操業する企業は公的に確認できる情報がほとんど存在せず、したがって環境・社会面での公的なコミットメントはあるように見えない。

今回のRANによる現地調査と衛星画像分析は、ファンギオノ・グループ傘下の8社が運営する11の事業管理地を対象とした。その結果、ファンギオノの3つの下位企業(ファースト・リソーシズ、FAPアグリ、KASグループ)すべてにおいて、大規模な森林皆伐が行なわれていたことが明らかになった。2021年1月から2026年5月の間に9,800ヘクタール以上の天然林が皆伐された。

FAPアグリ

衛星画像分析によると、FAPアグリは2021年1月から2026年5月の間、同社傘下のPT Marsam Citra Adiperkasa(PT MCA)およびPT Setia Agro Utama(PT SAU)の事業管理地で472ヘクタールの森林皆伐を行なったことが明らかになった。RANの調査員たちは、森で取り残されていたイースタン・グレイ・ギボン(テナガザルの一種)を確認した。同種は**IUCNレッドリスト**で絶滅危惧種に分類され、その生息が確認されたことは、皆伐が行われている森林が「高い保護価値(**HCV1**)」地域であることを示している。FAPアグリのパーム油はファースト・リソーシズのパーム油と混合して輸送され、FAPアグリのパーム核はファースト・リソーシズのパーム核油製造に使用されている。

FAPアグリ事業管理地での森林破壊に関する調査結果に対し、同社はPT MCAおよびPT SAUについて「高い保護価値(HCV)」および「高炭素貯留(HCS)」の評価を受けていると回答した。

PT MCAの事業管理地の皆伐区域において撮影された、絶滅危惧種のイースタン・グレイ・ギボン、2026年8月(GPS座標:0.227720、115.383355)

KASグループ

「KAS」傘下で操業するアブラヤシ事業管理地は、ファンギオノ・グループ内における森林破壊の最大要因である。RANの衛星画像分析によると、マハカムウル県およびクタイバラ県にある6カ所のKAS事業管理地で、2021年1月から2026年5月の間に8,796ヘクタールの天然林が皆伐された。

RANはKASグループに対しこれらの申し立てについての見解を求めたが、回答は得られなかった。

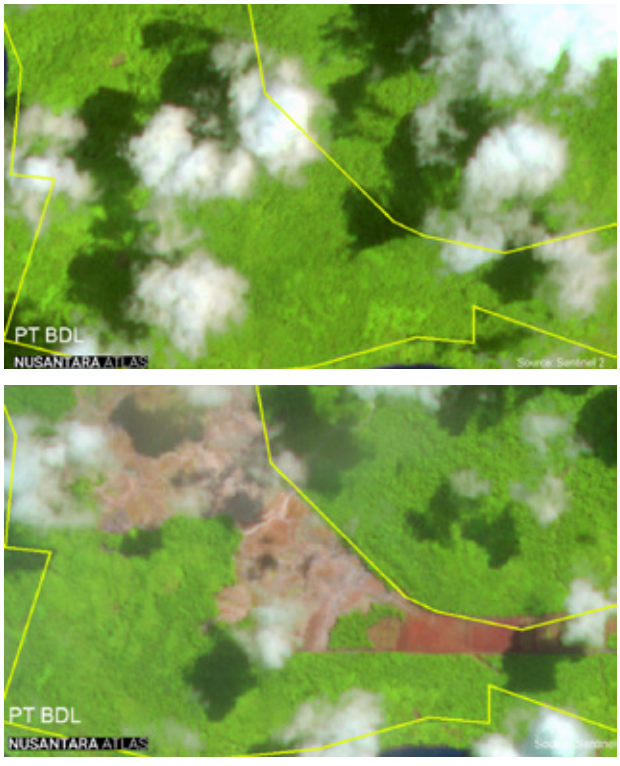
KASグループ傘下のPT Setia Agro Abadi（PT SAA）による最近の森林皆伐の様子、2025年9月（GPS座標：0.283298、115.516583）

KASグループ傘下のPT Setia Agro Abadi（PT SAA）による最近の森林皆伐の様子、2025年9月（GPS座標：0.283298、115.516583）

ファースト・リソーシズ

我々の分析により、ファースト・リソーシズは、FAPアグリとKASグループからの調達を通してNDPEの公約に違反しているだけでなく、マハカム川沿いの自社アブラヤシ事業管理地であるPT Borneo Damai Lestari（PT DBL）においても森林皆伐を行なっていることが明らかになった。衛星画像分析によると、この管理地だけでも2021年1月から2026年5月の間に514ヘクタールが皆伐され、その大部分は2025年以降に伐採された。この土地転換の一部は放棄されたゴム農園であったが、事業管理地の南東部および南西部はかつて天然林が広がっていた。

この申し立てに対し、ファースト・リソーシズはPT BDL内で開発が行なわれた区域について、同社の評価担当者によれば「高い保護価値（HCV）」や「高炭素貯留（HCS）」に分類される区域ではないと述べた。



2024年2月から2026年7月の、ヌサンタラ・アトラスに掲載された「Sentinel-2」衛星の画像。下はPT BDLによる森林破壊の様子を確認できる。

結論：ファンギオノ・グループを支える銀行、製油企業・商社、買い手

インドネシア、シンガポール、日本、マレーシアの大手銀行は、2021 年 1 月から 2026 年 9 月の間、ファンギオノ・グループに総額 12 億米ドルの融資を行った。この期間中、ファースト・リソーシズは三井住友フィナンシャルグループ（SMBC）、ユナイテッド・オーバーシーズ銀行（UOB）、DBS 銀行、メイバンクから 4 億 5,000 万米ドルの融資を受けた。一方、FAP アグリについてはバンク・セントラル・アジアが最大の資金提供者であり、同期間中の融資額は 2 億 6,700 万米ドルに上った。また、ファンギオノ・グループのもう 1 つの企業であるオースティンド・ヌサンタラ・ジャヤ（ANJ）も、2025 年 5 月にファースト・リソーシズにより**買収**されるまでに、5 億 1,700 万米ドルという多額の融資を受けていた。これらの融資を行なったのは、バンク・ラキヤット・インドネシア（BRI）、CIMB、オーバーシー・チャイニーズ銀行（OCBC）、SMBC、UOB である。

これらの銀行はすべて（バンク・ラキヤット・インドネシアを除く）、パーム油セクターの顧客企業を対象とした「森林破壊禁止、泥炭地開発禁止、搾取禁止（NDPE）」方針を掲げている。しかし、その方針の厳格さや実施状況、そして遵守を徹底させるための措置には、銀行によって差がある。本調査結果は、ファースト・リソーシズが自社だけでなく取引銀行の NDPE 方針にも準拠していないことを示している。FAP アグリについても同様である。両社にはいずれも融資残高があり、融資元銀行のリスク管理部門およびコンプライアンス部門は、これらの融資について調査を行い、適切な対応を講じるべきである。対象となる銀行には、ファースト・リソーシズの融資元として SMBC、DBS、UOB、および FAP アグリの融資元としてバンク・セントラル・アジア（BCA）が含まれる。

RAN の現地調査は、マハカムウル県で森林破壊を起こしている KAS がコントロールする農園からのパーム油が、PT CAK の積み出し施設を経由し、バリクパパン湾の製油所へ運ばれる過程で、（訳註：森林破壊との関連が不明瞭にされる）「パーム油ロンダリング」の実態を追跡した。その製油所から、NDPE に準拠していると虚偽の申告がなされたパーム油は、大手製油企業・商社を通じて国際的なサプライチェーンに流れていく。

今日、パーム油企業・商社や、パーム油の需要を牽引する大手消費財企業にとって NDPE 方針の採用が一般的となっている。これらの方針を実施するには、サプライヤー企業がパーム油の調達先や生産方法について情報を提供することが、重要な前提の一つとなる。消費財企業や製油企業・商社には、サプライヤーが提供する情報の正確性を検証する責任がある。しかし、サプライヤーが意図的にパーム油の産地を隠蔽した場合、こうした検証の基盤となる情報の信頼性が損なわれる。買い手はもはや、サプライヤーの確約を鵜呑みにすることはできない。

この信頼性の喪失は、ファンギオノ企業グループ全体に及んでいる。調査によって問題が明らかになった個々のアブラヤシ農園や施設との関係を断ち切っても、買い手は同じグループ内の他の企業や事業部門による確約に頼らざるを得なくなる。パーム油を販売する子会社や、取り扱う施設を変えるだけでは、この問題を解決することはできない。

ファンギオノ・グループをより広範に考えると、ウィルマー、カーギル、ADM、ブンゲ、バリー・カレボー、オラムといった主要なパーム企業・商社に供給し、ペプシコ、モンデリーズ、ネスレ、ケラノバ、ハーシーといった身近な消費財企業のサプライチェーンとも結びついている。

RAN は、ファンギオノ・グループのすべての事業が NDPE 要件を満たしていることが独立した第三者による検証で確認されるまで、消費財企業やパーム油企業・商社に対して同グループ全体をサプライチェーンから排除するよう求めている。

ファンギオノ関連企業・シャドーカンパニー企業一覧

グループ企業	傘下企業	事業内容・施設
ファースト・リソーシズ（シンガポール証券市場の上場企業）	PT CAK	・積み出し施設（パーム原油） ・搾油工場、パーム核粉砕工場 （消費財企業・パーム油企業のサプライヤー）
	PT KAL	搾油工場、パーム核粉砕工場 （消費財企業・パーム油企業のサプライヤー）
	PT WPS	パーム油製油所 （ファースト・リソーシズの子会社、FAP アグリの「関連当事者」）
	PT BDL	・事業許可地（コンセッション） NDPE 方針を約束しながら、マハカム川沿いで森林破壊を行っている
KAS グループ	PT AMS	搾油工場 （クタイバラ県）
	PT BCAM	搾油工場 （クタイバラ県）
	PT SAA	搾油工場 （マハカム川上流、桟橋を持つ） ・事業許可地（コンセッション） （地域最大の森林破壊企業）
FAP アグリ	PT MCA	・搾油工場 ・事業許可地（コンセッション） （マハカム川上流、森林破壊）
	PT BBS	搾油工場 （マハカム川上流）
	PT SAU	事業許可地（コンセッション） （森林破壊、取り残されたテナガザルを発見）
ファンギオノ・グループ	PT FPS	船舶
	PT BMS	船舶